

ネイチャーポジティブ(自然再興) によるコベネフィット検討WG

2026年2月17日

WG事務局:株式会社バイオーム

ネイチャーポジティブ(自然再興)によるコベネフィット検討WGの活動について(1/2)

WG承認年月	2023年9月
参加団体・個人	※敬称略、50音順(2026年1月現在8団体、個人5名) ● アジア航測株式会社 ● 株式会社バイオーム (事務局) ● 合同会社オトナリ ● 富士通Japan株式会社 ● 郡山観光交通株式会社 ● 個人5名 ● 大成建設株式会社 ● 日揮株式会社 ● 日本エヌ・ユー・エス株式会社
活動経緯(概要)	● 地域内活動 ● 2025年10月:田村市役所訪問・面談の実施。田村市内の自然共生サイト候補地の現地視察(環境省メンバーと同席) ● その他活動 ● 前回の総会后マッチングイベントをきっかけに、複数社と事務局(バイオーム社)にてネイチャーポジティブに関する面談を実施 ● 過去面談済みの国立環境研究所福島地域共同研究拠点の研究者との連携プロジェクトを実施(バイオーム社として)

ネイチャーポジティブ(自然再興)によるコベネフィット検討WGの活動について(2/2)

活動結果	【総括・課題】 ● 出口が見えていない中で、具体的な活動の推進や事業者の巻き込みにリソースを割くことができなかった ● 単発のヒアリングや情報交換に終始していた 【対応策(案)】 ● WG内外の事業者と協力して、改めて「実証」に持っていく流れを作る
今後の予定	【次年度(2026年度)の目標・方向性・将来像】 ● 原点に立ち返り、“ネイチャーポジティブ”の取組みが「脱炭素×復興まちづくり」に繋がる構造を示し、WG内に限らず協力事業者との具体的な「実証」を目指す 【2030年度の目標・方向性・将来像】 ● 「グリーンインフラ」「環境に配慮した再生可能エネルギー」「エコツーリズム」「自然共生サイト」など、ネイチャーポジティブな施策が地域に当たり前として取り入れられて、更にこの地域だからこそできる最先端の取組み(自治体・企業・研究機関連携)が行われる場所となっている。

【ネイチャーポジティブ(自然再興) によるコベネフィット検討WG】

参加団体等による
脱炭素製品・サービス提案一覧

提案一覧

※企業名50音順

企業名	所在地	提案概要	詳細
日本エヌ・ユー・エス株式会社	東京都新宿区 福島県いわき市(福島事業所)	1971年の創業以来、当社はエネルギー、環境、社会科学といった多様な分野で培ってきた高度なコンサルティング能力を活かし、「持続可能で、豊かで安心できる未来社会の構築」に貢献することを理念として事業を展開してまいりました。東日本大震災直後に「福島復興支援チーム」を組織し、これまで福島被災地の復興を支援するため、国の除染業務や中間貯蔵施設事業などに継続的に関わってきました。 当社の強みである分野横断的な視点(カーボンニュートラル、カーボンクレジット、資源循環、気候変動適応、ネイチャーポジティブ等)を活かし、本WGにおいては、地域の復興フェーズに寄り添いながら、動向把握から社会実装後までの一貫した支援を通じて、復興へ引き続き貢献してまいります。	—